

【メールマガジン～近畿運輸局公共交通だより】

2018年4月10日配信（No. 55号）

本メールは、公共交通政策全般について皆様に広く関心を持って頂くため、国土交通省総合政策局公共交通政策部が作成した全国の情報に、近畿運輸局において主に近畿地方の情報を加えて編集し、情報発信するものです。

☆☆☆ご意見・情報がありましたら、以下までお寄せ下さい。☆☆☆

★★★ご意見や情報、メールアドレスの変更はこちらへ★★★

<mailto:kkt-kinki-kikakuka@ml.mlit.go.jp>

なお、本メールの配信停止を希望される方は、上記アドレスまで「配信停止」と記入のうえお知らせください。また、本メールは出典を明記のうえで、関係者の方々に回覧・転送していただいても結構です。

※関係団体の皆様におかれましては、関係交通事業者あてに転送くださると幸いです。

○ポータルライナーで「交通環境教室」を開催しました！ （神戸運輸監理部）

○「平成29年度 地域公共交通活性化セミナー in 長野」を開催しました。
（北陸信越運輸局）

○「交通実践セミナーin 広島 ～運輸業・建設業の魅力向上に向けて～」を開催しました。
（中国運輸局）

○都道府県・政令指定都市の国土交通省担当の皆さんに地域公共交通施策を紹介しました。
（総合政策局 公共交通政策部 交通計画課）

○「70歳からの生活の足を考えるフォーラム ～高齢者の安全・安心な移動を目指して～」を開催しました。
（北海道運輸局）

○4月12日に「地域公共交通サミット in 北九州2018」が開催されます。

<掲示板>

☆ 地域公共交通支援センターについて

☆ 公共交通利用促進キャラクター「のりたろう」について

ポートライナーで「交通環境教室」を開催しました！

(神戸運輸監理部)

神戸運輸監理部は、2月22日(木)に神戸新交通株式会社の協力を得て、社会福祉法人成晃会 成晃ひかり保育園の園児31名を対象に、交通環境教室を開催しました。ポートライナー(※)及び車両基地を利用した教室は今回が初めてです。また、公共交通利用促進キャラクター「のりたろう」が神戸に初上陸しました。

※ポートライナー(神戸新交通ポートアイランド線)とは・・・神戸の中心地・三宮からポートアイランド、神戸空港までを結ぶ新交通システムの路線



のりたろうが園児をお出迎え



講話「公共交通ってなあに？」

保育園では、神戸運輸監理部職員が公共交通に関する講話を行いました。鉄道をはじめとする公共交通は、高齢者や障がい者等を含め誰でも乗ることができる「人にやさしい」乗り物であるとともに、CO2排出量が少なく地球温暖化の防止につながる「地球にやさしい」乗り物でもあることを、イラストを中心としたスライドで分かりやすく説明しました。園児たちは、質問に元気に答えるなど、楽しく公共交通の利便性や安全性について学びました。

保育園から車両基地には、ポートライナーを利用して移動しました。整列乗車すること、車内で騒がないことなど、利用時のマナーを体験するとともに、講話で説明した「人にやさしい」設備(視覚障害者誘導用ブロック、ホームドア、音声案内、電光掲示板、エレベーター、スロープ、多機能トイレ等)を駅や車内で見たり、聞いたり、触ったりして、体感しました。



ホームドアを説明



点字案内板を触ってみる

車両基地では、神戸新交通株式会社職員がポートライナーの車両の仕組みや点検・整備について説明したあと、車両の中から洗車の様子を見学しました。園児たちは、普段見ることのできない様々な設備等を興味深そうに見学し、洗車体験では大迫力の洗車機に驚きと興奮の声を上げていました。



ポートライナーの博士（整備士）が説明



車両の中から洗車体験

園児たちからは「出かけるときは電車やバスに乗りたい。」「お父さん、お母さんを誘って乗ってみる。」「電車の整備士になりたい。」「ホームドアがあると安心。」等、嬉しい感想が多く寄せられ、のりたろうも喜んでいました。この日の様子は、サンテレビのニュースや神戸新聞の記事で紹介されました。

神戸運輸監理部は、今後もこのような教室開催に積極的に取り組み、公共交通への関心を高めるとともに、公共交通の利用促進を図って参ります。



のりたろうとポートライナーの車両基地

「平成29年度 地域公共交通活性化セミナー in 長野」を開催しました。

(北陸信越運輸局)

北陸信越運輸局では、2月23日(金)にホテルメルパルク長野(長野県長野市)において、「平成29年度 地域公共交通活性化セミナー in 長野」を開催しました。

本セミナーは、北陸信越運輸局として「異分野連携による地域公共交通の生産性向上」を促進する観点から、公共交通に関する最新の知見や国の取組等を紹介し、地域が抱える公共交通の課題の解決を目的としたものであり、自治体・事業者など約140名の方々にご参加いただきました。



金沢大学 高山教授

第Ⅰ部のセミナーでは、1つ目のテーマとして「交通まちづくり政策における地域公共交通の役割と課題」について、金沢大学理工研究域環境デザイン学系・系長 高山純一氏よりご講演いただきました。

金沢市を事例として、ご自身が携わられたプロジェクト等をベースとしながら、まちづくりと地域公共交通をどのように連携していくか、その知見についてご紹介いただきました。

講演の中で、金沢バストリガー方式(事前に設定した目標値を満たさなければ元に戻す協定)についての説明がありました。事前に設定した採算ラインを満たさなければ元に戻すことになるため、利用者としては乗って守っていかなければなりません。セミナー終了後のアンケートでも、参考になった点として「金沢バストリガー方式」が多くの方から挙げられており、関心の高さがうかがえました。

また、2つ目のテーマとして「異分野連携による地域公共交通の生産性向上」について、国土交通省総合政策局公共交通政策部交通計画課 酒井達朗課長補佐が講演しました。

貨客混載や乗合バスとスクールバスの混乗等のほか、教育、医療、福祉をはじめとする異分野連携による地域公共交通の生産性向上について紹介しました。

アンケートでは、来年度以降に実施を検討している施策・事業として、貨客混載やスクールバスの混乗が多くの自治体で挙げられており、異分野連携による生産性向上についての取組が既に広がりつつあることがうかがえました。今回の講演では他にも、観光や福祉分野等との連携についても紹介したため、今後、これらの分野でも連携が図られることを期待します。

第Ⅱ部では、平成30年度予算等に係る北陸信越ブロック説明会として、「地域公共交通確保維持改善事業の概要」について、国土交通省総合政策局公共交通政策部交通支援課 日下雄介企画調整官より説明を行いました。

アンケートの「今後開催するセミナーにおいて講演を希望する内容・テーマ」として、ICカード導入などによる利用促進策についての意見が多く見受けられました。ICカード導入に限らず、自治体と交通事業者へ様々な情報を提供していく必要性を感じたため、今後、北陸信越運輸局としては本省と連携し、今回のようなセミナー等を通じての情報提供を行ってまいります。



「交通実践セミナーin 広島

～運輸業・建設業の魅力向上に向けて～」を開催しました。

(中国運輸局)

中国運輸局では、中国地方整備局と共催で、2月23日(金)に「交通実践セミナーin 広島 ～運輸業・建設業の魅力向上に向けて～」を開催しました。

当日は、公益財団法人豊田都市交通研究所主任研究員の福本雅之氏、太陽交通株式会社代表取締役の堀貫治氏、株式会社長岡塗装店常務取締役の古志野純子氏を招いてご講演いただき、管内の地方公共団体、交通事業者、建設事業者等約100名の方々が参加しました。



セミナー会場の様子



パネルディスカッション

セミナー後半は、3名の講師をパネリストに、お互いの疑問や業種等を越えた共通点等についてお話いただいたほか、会場の参加者の方々からのお悩みなどに具体的なアドバイスをいただくなど、充実した内容となりました。

運輸業と建設業について同じテーマで紹介するのは初めての試みでしたが、昨今取りざたされている、人材、特に若年層不足、社員の高齢化、それに伴う路線バス等の減便、土木工事の施工の遅れ、それを補うための女性運転手や女性技術者の獲得などは共通の課題とされております。取組事例として紹介された、

将来を担う若者をはじめとする一般職員やワーク・ライフのライフに重点を置いた施策や、出産・育児に手厚く配慮するなどの長く働ける環境作りに長年尽力された民間ベースの働き方改革の好例など、現状打開に向けた多くのノウハウの紹介は、どの会社でも取り組むべき施策として、参加者の皆様のみならず、セミナーを主催した私たち職員にとっても勉強になる貴重な経験となりました。

都道府県・政令指定都市の国土交通省担当の皆さんに

地域公共交通施策を紹介しました。

(総合政策局 公共交通政策部 交通計画課)

2月27日(火)に、国土交通省本省にて「全国都道府県・政令指定都市 国土交通省担当者連絡協議会(通称「とんび会」)の勉強会が開催され、「地域公共交通の活性化及び再生に向けた施策と課題」の演題で、国土交通省公共交通政策部交通計画課の金子課長が講演を行いました。

金子課長自ら売り込んで設定した勉強会だけに、たくさんの方が集まってほしい!と思いつつも、どれだけの人が来られるのか、多少の不安も当初はあったのですが、蓋を開けてみると55名ものご出席をいただき、大盛況となりました。

講演中には、途中で何度も会場に笑いが起こり、最後は「オフレコモード」の脱線気味な話題も登場して、皆さんには楽しんで聞いていただけたのではないかと思います。

講演後の意見交換では、講演内容そのものに関する質問だけでなく、「公共交通利用促進キャラクター『のりたろう』のLINEスタンプがあったら使いたい」というリクエストまでいただき、大いに盛り上がりました(すみません、検討していますが無料は難しそうです・・・)。

地域公共交通の維持・活性化には、各地域の方々の主体的な取り組みが欠かせません。地方公共団体の皆様をはじめ多くの方々に、地域公共交通の持つ意義や、どのように取り組んでいくべきか、といったことを一緒に考えていただくために、今後もありとあらゆる機会を活用していきたいと思えます。「活性化再生法について話を聞きたい」「全国の事例について紹介して欲しい」などご要望がございましたら、本省の交通計画課や、お住まいの地域の運輸局・運輸支局まで、ご連絡頂ければと思います。



「70歳からの生活の足を考えるフォーラム

～ 高齢者の安全・安心な移動を目指して～」を開催しました。

(北海道運輸局)

平成28年3月に運転免許更新に関わる制度改正が行われ、免許返納を行う高齢者は徐々に増加していますが、免許返納後に必要な移動手段が確保されるのか心配されている方も多くいらっしゃいます。

北海道運輸局では、3月19日(土)に北海道釧路市で「70歳からの生活の足を考えるフォーラム」を開催し、105名の参加者と共に70歳からの生活の足について考えました。



第1部の基調講演では、筑波大学大学院システム情報工学研究科准教授 谷口綾子氏からモビリティ・マネジメントの概要とポイントについてお話を頂くと共に、北海道運輸局が今年度釧路市をフィールドに行った取組に関する結果について分析を頂きました。

また、話題提供として、北海道警察釧路方面釧路警察署交通第一課警部補 川原悟氏から高齢者が関係する交通事故のドライブレコーダーの映像を見ながら、高齢者の事故予防に関するお話を頂きました。

第2部のパネルディスカッションでは「高齢者の安全・安心な移動を目指して」をテーマとし、東栄山の手地区老人クラブ連合会の菱沼会長から高齢者目線でのお話を頂いたほか、くしろバス(株)の原課長及び阿寒バス(株)の須田次長から路線バスに関する高齢者向けの取組をご紹介頂きました。また、釧路市総合政策部都市経営課の藤田主幹からは釧路市で取り組んでいる公共交通網の再編に関する説明を頂きました。

生活の足を自家用車から公共交通へ転換するためには、人々の意識を変換することが重要です。公共交通の利便性確保を前提としつつ、情報提供の充実等多様なアプローチを行い、高齢者の運転について家族や地域みんなで考える機会の創出が必要と考えます。

北海道運輸局といたしましても、路線バス等の公共交通の利便性を認識してもらうための施策等に関係の皆様と一層、連携して取り組み、移動手段の確保を懸念されている方々の心配の解消に努めて参りたいと考えております。

4月12日に「地域公共交通サミット in 北九州2018」が開催されます。

◆「東京交通新聞社」からのご案内です。◆

東京交通新聞社は、政令指定都市の中でも最も高齢化が進展する北九州市において「公共交通を軸にしたまちづくり」(コンパクトシティ+ネットワーク)をテーマに「地域公共交通サミット in 北九州2018」を開催いたします。

公共交通を軸にしたまちづくりとは何なのかを視座に、少子高齢化がもたらす移動の問題の抜本的解決策としての地域コミュニティの再生などについて議論を深めます。

こうした問題は全国の普遍的テーマであり、本紙では今回の催しを全国フォーラムとして位置づけております。ご当地は元より全国各地より、是非とも御参加賜りますようご案内申し上げます。

■ 開催日時

平成30年4月12日(木) 13:20開会(受付は13:00から)

■ 場所

九州国際大学 大講義室(KIUホール)
福岡県北九州市八幡東区平野1-6-1

■ 参加費

無料(懇親会は2,000円)

■ プログラム

基調講演

名古屋大学環境学科研究科教授(地域公共交通プロデューサー) 加藤 博和

「公共交通がまちをつくり、まちが公共交通をつくるーいまこそ、舵を切れ!ー」

九州国際大学法人事務局次長(工学博士) 神力 潔司

「都市計画と地域公共交通ーまちづくりとコミュニティ交通のアクセシビリティー」

事例報告

総合警備保障(ALSOK)北九州支社

「タクシーと連携した高齢者の見守りサービス」

全国個人タクシー協会近畿支部長 和田 廣一

「地方創生、個人タクシーふるさと異動制度」

大牟田市立病院副院長(福岡県医師会理事、救急災害医療担当) 藤野 隆之

「JMAT活動ー被災地における移動問題ー」

パネルディスカッション

テーマ

「地域コミュニティの再生と移動の問題(コンパクトシティ+ネットワーク)」

パネリスト

国土交通省自動車局長 奥田 哲也

北九州市副市長 今永 博

名古屋大学教授 加藤 博和

西鉄バス北九州社長 庄山 和利

第一交通産業グループ社長 田中 亮一郎
光タクシー社長 石橋 考三
福岡県個人タクシー協会副会長 藤村 考治

■ 主催

東京交通新聞社

■ 後援

国土交通省、九州国際大学、九州乗用自動車協会、福岡県タクシー協会、北九州タクシー協会、
福岡県個人タクシー協会

参加方法など詳細につきましては、東京交通新聞社HPをご覧ください。

<https://z142.secure.ne.jp/~z142015/sumitt2018.html>

< 掲 示 板 >

☆ 地域公共交通支援センター

公共交通政策部では、市町村をはじめとする各地域の関係者が、地域公共交通の確保・維持に取り組む際に有効に活用いただくため、全国各地における様々な先進事例（約300事例）を蓄積している「地域公共交通支援センター」を運用しております。

「地域公共交通支援センター」は、地域、人口、交通モード等により、先進事例を検索することも可能となっております。是非ご活用下さい。

<地域公共交通支援センター> <http://koutsu-shien-center.jp/index.html>

☆ 公共交通利用促進キャラクター「のりたろう」

公共交通利用促進キャラクター「のりたろう」（以下「キャラクター」という。）は、公共交通の利用促進について、より効果的な広報・啓発を行うことを目的としております。

キャラクターの使用を希望される場合、地方運輸局交通政策部交通企画課までお問い合わせ下さい。申請手続きについてご案内致します。

なお、「地域公共交通支援センター」においても、キャラクターの申請手続き、使用方法、FAQをご案内しております。

公共交通利用促進キャラクター のりたろう



大好きな公共交通機関で働くことを夢見ていたが、ネコでは単独で乗り降りができないことから一念発起。自らが新たなハイブリッド公共交通機関に進化することで夢を実現し、現在は利用促進PRの先頭に立って活動している。

駅長を務めるなど活躍中の仲間達を同じネコとして尊敬しており、いつか会って公共交通について熱く語り合いたいと思っている。

- ・移動手段は「ネコ足歩行」
- ・自由に移動できるが、疲れてしまうので100歩ごとに休憩が必要
- ・乗車可能人数は運転士（のりたろう本人）を含めて1名のみ！

読者の皆様からのご要望や全国に共有したい情報等がございましたら、以下の【お問い合わせ先】までご連絡下さい。

【お問い合わせ先】

国土交通省総合政策局公共交通政策部交通計画課 石橋

〒100-8918

東京都千代田区霞が関2-1-3（中央合同庁舎3号館3階）

TEL：03-5253-8275（直通）

FAX：03-5253-1513

E-mail: koutsukeikaku_joho@mlit.go.jp

★国土交通省HP（情報発信のページ）

http://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/transport/sosei_transport_tk_000039.html



